

第1学年 国語科学習指導案

1. 単元名・題名 おはなしを たのしもう
「たぬきの糸車」

2. 指導の考え方

○ 子どもの実態

本学年の子どもたちは、「読むこと」の学習を好み、音読の練習に意欲的に取り組んでいる。また、質問に対して、自分の考えを発表することに少しずつ慣れてきているが、最後まで集中して話を聞いたり、友達の考えに付け加えたり、比べたりすることは、十分ではない。「書くこと」に関しては、板書を写したり、文や言葉を視写したりすることはできるようになってきたが、学習して分かったことを自分の言葉で順序よく書きまとめることを苦手としている子どもが多い。

これまでに、「おおきなかぶ」や「くじらぐも」の学習で、登場人物の一人になったつもりで音読したり、動作化したりすることで、主人公の様子を具体的に想像したり、気持ちを考えたりする学習をしてきた。また、挿し絵と言葉をつないで読む、繰り返しの言葉を読む「読み方の種」を積み重ねてきた。また、言葉を比べて読む、言葉をはずして読む「読み方の種」も習得しているが、活用するまでには至っていない。

○ 教材の価値・特質

本教材は、いたずらものだが憎めないたぬきが、人のよいおかみさんに命を助けてもらったお礼に、糸車で糸を紡ぐ話である。回したくてたまらなかつた糸車を思う存分回しておかみさんにお礼ができて、喜々として帰って行くたぬきの姿が描かれている。この教材は、たぬきと同化し、おかみさんに対する気持ちを考えさせるのに適しており、民話の楽しさを味わわせる上で大変意義深い。

文章構成の特質としては、6場面構成されており、「むかし」「あるばん」「はるになって」などの時間の経過を表す言葉で場面が区切られていることが挙げられる。秋から春という季節の経過で場面が移り変わり、たぬきのしたことをもとにあらすじをつかむことができるが、その間の冬の場面では、たぬきのしたことが描かれていない。そこで、秋の場面と春の場面を手がかりに、冬の間のたぬきの姿を想像しながらおかみさんへの思いを読み取ることができる。

文章表現の特質としては、「キーカラカラ キークルクル」という擬音語の繰り返しや「くるりくるり」などの擬態語があること、「やってきて」や「こちらをのぞいていました。」など、たぬきのおかみさんの視点で描かれている叙述があることが挙げられる。また、山奥の一軒家の情景やたぬきのおかみさんのように各場面に挿し絵がある。これらのことから、挿し絵と言葉をつないで読む、言葉を比べて読む、繰り返して読む「読み方の種」で、登場人物の行動を中心に様子や気持ちをとらえるのに適した教材である。

○ 指導にあたって

はじめに、題名「たぬきの糸車」から「たぬき」「糸車」が出てくるお話だということに気付かせ、冒頭の「いたずら」とつないで、「たぬきは、糸車で何をやるのかな。」「いたずらするたぬきがこれからどうなるのか。」というお話の展開と糸車とのつながりに着目させて、読みのめあてを生み出す。

次に、読みのめあてに沿って全文を読み、たぬきがしたことに着目させ、あらすじをとらえて、予見を書きまとめる。そして、たぬきのしたことに対する問いかけを作り、学習計画を立てる。

読み深め・読み確かめでは、たぬきがしたことを視写する【書くこと①】から取り組み、挿し絵と言葉をつないで読む、言葉を比べて読む「読み方の種」や、動作化したり自分の経験とつないで考えたりする言語活動をもとに【交流】し、たぬきの様子や気持ちについて読み深めていけるようにする。その際、【書くこと②】で、学習のまとめが書けるように、読み深めたことを黒板で確認する。そして、黒板におはじきを貼り付けて、その文や言葉に着目させて、たぬきの様子や気持ちを書きまとめさせる。

読みのまとめ・読み方のまとめでは、これまでの読みを振り返り、この後の続き話を考える。また、ことばの大切さに気付き、考え、発見し、確かにしていくために、習得・活用した挿し絵と言葉をつないで読む、言葉を比べて読む、繰り返して読む「読み方の種」をまとめる。

3. 単元の目標

- 毎晩のようにいたずらをしていたたぬきが、おかみさんに助けてもらったお礼に、冬の間に一生懸命に糸車を回して糸をつむぎ、帰って行くまでのお話をあらすじとして読み取ることができる。
- たぬきがしたことを中心に挿し絵と言葉をつないで読む、言葉を比べて読む、繰り返して読む「読み方の種」を習得・活用し、書く活動や交流活動を通してことばの大切さに気付き、考え、発見し、確かにすることができる。

4. 学習計画 (全12時間)

学習過程	時	主な学習活動と内容	・「読み方の種」 ☆大切にする言葉	指導上の留意点・言語活動の工夫 ○【書くこと①】の観点と手だて △【交流】の観点と手だて □【書くこと②】の観点と手だて
読みのめあて	1	1 題名と冒頭をつないで読みのめあてを生み出す。 (1) 単元名から学習の見通しをもつ。 (2) 題名から考えたことや疑問に思ったことを出し合う。 (3) 冒頭を読み、登場人物がしたことについて考える。 (4) 読みのめあてをつくる。	・挿し絵と言葉をつないで読む ☆山おくの 一けんや ・言葉ははずして読む ☆～のように	△ 読みのめあてを作るために、題名から気付いたこと、疑問に思うことを発表させる。 △ きこりが畏をしかけたわけを考えさせるために、たぬきがどんないたずらをしたのか、挿し絵をもとに想像させる。
[読みのめあて] まいばんのようにやってきて、いたずらをするたぬきが糸車でなにをするおはなしかな。				
予見	2 3 4	1 読みのめあてに沿って全文を読む。 ・新出漢字、難語句を確認すること 2 挿し絵をもとに、あらすじをまとめる。 3 予見を発表し合い、学級の予見として方向付ける。	・挿し絵と言葉をつないで読む ・時を表す言葉を読む	△ 時を表す言葉に着目させ、いくつかの場面で構成されているのか確認させる。 △ あらすじをつかませるために、「たぬきが」「たぬきは」という言葉に着目させたり、挿し絵と対応させたりして、たぬきがしたことについてサイドラインを引かせる。 □ 書き出しと文末を与えて、予見を書かせる。
[予見] はじめに、たぬきが糸車を まわすまねをしたよ。 つぎに、まいばんまいばん やってきて、糸車をまわすまねを くりかえしたよ。 そして、わなにかかったよ。でも、おかみさんににがしてもらったよ。 それから、はるになって じょうずな手つきで糸をつむいだよ。 さいごに、うれしくてたまらないというように びよんびよこおどりながらかえっていったよ。				
学習計画	5	1 よく分からなかったことや、もっと知りたいことをはっきりさせ、読み深めていく計画を立てる。		○ たぬきがしたことについて疑問をもたせ、読み深める内容と問いかけを設定させる。
[学習計画] ① 糸車を回すまねを繰り返すたぬきの様子を詳しく読み、たぬきの気持ちを読み深める。 ・ 糸車を回すまねをするとき、何をのぞいていたのかな。 ・ どうして、回すまねを繰り返したのかな。 ② わなにかかったたぬきの様子を詳しく読み、たぬきの気持ちを読み深める。 ・ わなにかかった時、どんな様子だったのかな。 ・ 逃がしてもらった後、どんな気持ちだったのかな。 ③ 冬の間のたぬきの様子を想像する。 ・ 何をしていたのかな。 ④ 糸を紡いでいるたぬきの様子を詳しく読み、たぬきの気持ちを読み深める。 ・ どうして、糸を紡いでいたのかな。 ⑤ びよんびよこ踊りながら帰って行くたぬきの様子を詳しく読み、たぬきの気持ちを読み深める。 ・ どうして、びよんびよこ踊りながら帰って行ったのかな。				

読み深め・確かめ	6 【組本時】	<p>糸車を回すまねを繰り返すたぬきの様子や気持ちを読み深める。</p> <p>1 たぬきがしたことにサイドラインを引く。 2 たぬきがしたことについて話し合う。 3 話し合ったことをもとに、「学習のまとめ」を書く。</p> <p>たぬきはね、おかみさんの手もとを見て目玉をくるりくるりとまわしながら、のぞいたんだよ。 そして、糸車をまわすまねをくりかえしたんだよ。 それはね、おかみさんのまわす糸車がいたずらよりたのしそうで、やってみたくておもったからだよ。</p>	<p>・挿し絵と言葉をつないで読む ☆くるりくるり</p> <p>・繰り返しの言葉を読む ☆まいばんまいばん</p>	<p>○ たぬきがしたことを順にとらえるために、たぬきがしたことにサイドラインを引かせる。 △ 挿し絵を手がかりに目玉がくるりくるりと回っていたことに着目させ、たぬきがおかみさんの手元を見ていることやじっと見ている様子に気付かせる。 △ たぬきが回すまねをした時の様子を考えさせるために、動作化をさせる。 △ いたずらよりも糸車を回すまねをする方が楽しくなってきたことに気付かせるために、冒頭でのたぬきの様子を想起させる。 □ 板書をもとに読み深めたことを整理し、大事な文や言葉におはじきを貼り付けてその文や言葉に着目させ、たぬきの様子や気持ちを書きまとめさせる。</p>
	7	<p>わなにかかったたぬきの様子や気持ちを読み深める。</p> <p>1 たぬきがしたことにサイドラインを引く。 2 たぬきがしたことについて話し合う。 3 話し合ったことをもとに、「学習のまとめ」を書く。</p> <p>たぬきはね、わなにかかったとき、さかさまになったよ。でも、おかみさんがにがしてくれたよ。 たぬきは、にがしてもらってじぶんのあなにかえり、おかみさん、にがしてくれてありがとうとおもったよ。</p>	<p>・挿し絵と言葉をつないで読む ☆わなにかかっていた</p>	<p>○ たぬきがしたことを順にとらえるために、たぬきがしたことにサイドラインを引かせる。 △ たぬきがわなにかかった時の様子や気持ちを考えさせるために、挿し絵に着目させる。 △ おかみさんに逃がしてもらった後のたぬきの気持ちを考えさせるために、ペープサートを使い、叙述にはないたぬきの様子を想像させる。 □ 板書をもとに読み深めたことを整理し、大事な文や言葉におはじきを貼り付けてその文や言葉に着目させ、たぬきの様子や気持ちを書きまとめさせる。</p>
	8 【組本時】	<p>糸を紡いでいるたぬきの様子や気持ちを読み深める。</p> <p>1 たぬきがしたことにサイドラインを引く。 2 たぬきがしたことについて話し合う。 3 話し合ったことをもとに、「学習のまとめ」を書く。</p> <p>たぬきはね、おかみさんとおなじようにじょうずな手つきで糸をつむいでいたんだよ。 それはね、ふゆのあいだに糸車をまわして、じょうずになっておかみさんにおれいをしようとおもったからだよ。</p>	<p>・挿し絵と言葉をつないで読む ☆じょうずな手つきで</p>	<p>○ たぬきがしたことを順にとらえるために、たぬきがしたことにサイドラインを引かせる。 △ おかみさんが驚いている様子から、たぬきがしたことを確認する。 △ たぬきが上手な手つきで糸を紡げるようになったわけを考えさせるために、冬の間のたぬきを想像させる。 △ うれしい気持ち、感謝の気持ちを具体的にとらえさせるために、前の場面とつないで考えさせる。 □ 板書をもとに読み深めたことを整理し、大事な文や言葉におはじきを貼り付けてその文や言葉に着目させ、たぬきの様子や気持ちを書きまとめさせる。</p>

	<p>びよんびよこ踊りながら帰っていったぬきの様子や気持ちを読み深める。</p> <p>1 たぬきがしたことにサイドラインを引く。</p> <p>2 たぬきがしたことについて話し合う。</p> <p>3 話し合ったことをもとに、「学習のまとめ」を書く。</p> <p>たぬきはね、びよんびよこおどりながらかえっていったよ。 それはね、おかみさんにおれいできたし、きづいてもらえてうれしかったからだよ。</p>	<p>・言葉をはずして読む ☆びよこんと びよんびよこ</p> <p>・挿し絵と言葉をつないで読む ☆おどりながら</p>	<p>○ たぬきがしたことを順にとらえるために、たぬきがしたことにサイドラインを引かせる。</p> <p>△ うれしくてたまらないたぬきの様子や気持ちを考えさせるために、挿し絵に着目させる。</p> <p>□ 板書をもとに読み深めたことを整理し、大事な文や言葉におはじきを貼り付けて、その文や言葉に着目させて、たぬきの様子や気持ちを書きまとめさせる。</p>
読み・読み方のまとめ	<p>1 読みのまとめをする。</p>		<p>△ 挿し絵や掲示物を使って、たぬきがしたことを確認する。</p>
	<p>[読みのまとめ]</p> <p>はじめに、たぬきが糸車をまわすまねをしたんだよ。 つぎに、おかみさんがまわす糸車がたのしそだったから、まいばんまいばんやってきて、糸車をまわすまねをくりかえしたんだよ。 そして、わなにかかったんだよ。でも、おかみさんににがしてもらったんだよ。 それから、たすけてもらったおかみさんにおれいがしたくて、ふゆのあいだもれんしゅうしていたから、じょうずな手つきで糸をつむいだんだよ。 さいごに、おかみさんにおれいできたし、きづいてもらえたから、うれしくてたまらないというようにびよんびよこおどりながらかえっていったんだよ。</p>		
<p>10 11 12</p>	<p>2 冬の間なたぬきがしていたことを、想像を膨らませて話し合い、お話を書く。</p> <p>[お話の柱]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たぬきは、またやってきました。 ・いえにはいました。 ・はじめて糸車をまわしました。 ・糸のたばが一つできました。 ・糸のたばが山のようにになりました。 <p>3 「読み方の種」のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉を比べて読む ・言葉をはずして読む ・挿し絵と言葉をつないで読む ・時を表す言葉を読む ・繰り返しを読む <p>4 好きな場面のお話を絵に描き、好きな理由を発表する。</p>		<p>△ 冬の間なたぬきがしていたことを想像させるために、秋の場面と春の場面のたぬきの様子を比べさせる。</p> <p>□ 冬の間なたぬきの様子を順序よく書かせるために、柱の文は必ず書くことを確認する。</p> <p>○ 掲示物をもとに、学んだ「読み方の種」を確認する。</p> <p>△ たぬきがしたことを振り返った後、好きな場面とその理由を発表させる。</p>

第1学年 組 (公開授業①)

5. 本時 (6/12) 読み深め・読み確かめ

6. 本時の目標

- 糸車を回すまねを繰り返すたぬきの様子を読み取り、いたずらをするよりも、糸車を回すまねをする方が楽しくなってきた、回したくてたまらないという気持ちを読み深めることができる。
- 挿し絵と言葉をつないで読む、くり返しを言葉を読む、言葉を比べて読む「読み方の種」を習得・活用し、書く活動や交流活動を通して「くりかえしました」の言葉のもつ大切さに気づき、考え、発見し、確かに行うことができる。

7. 本時指導の考え方

前時まで、子どもたちは、お話に出てくるたぬきがどんなたぬきなのか、山奥の一軒家とはどんなところなのかを確認し、予見・学習計画を立て、本時学習に対して、「何をのぞいたのか。」「どうして糸車を回すまねを繰り返したのか。」という問題意識を持っている。

本時は、糸車を回すまねを繰り返すたぬきの様子を読み取り、回したくてたまらないという気持ちを読み深める学習である。

そのために、まず、たぬきのしたことを順にとらえさせるために、たぬきがしたことによりサイドラインを引かせ、問いかけを確認する。

次に、挿し絵をもとにたぬきの様子を確かめて、何をのぞいたのかを話し合わせる。その上で、「のぞく」と「見る」を比べさせたり、目玉が「くるりくるり」と回っていることに着目させたりして、たぬきがのぞいている様子を読み取らせる。

それから、たぬきが、糸車を回すまねをした時の気持ちを話し合わせる。その際、教師がおかみさん役になり、子どもたちにたぬきが糸車を回すまねをする様子を動作化させ、糸車を回すときの気持ちを想像させる。

そして、たぬきが糸車を回すまねを繰り返したわけを交流させる。その中で、「いたずらするより楽しくなってきたから」という考えは出にくいと予想される。そこで、「まいばんまいばん」と「まいばんのように」を比べさせることによって、いたずらをしていた時とは違って、毎日おかみさんのところへやってくることを確認し、糸車を回すまねをすることがいたずらより楽しくなってきたたぬきの気持ちを想像させる。

最後に、板書をもとに読み深めたことを整理し、大事な文や言葉におはじきを貼り付けてその文や言葉に着目させ、たぬきの様子や気持ちを書きまとめさせる。考えのまとまらない子どもには、おはじきを手がかりに板書の中から自分の考えに一番近いものをもとに書きまとめさせるようにする。

8. 板書計画

おはなしを たのしもう
がくしゅうのめあて たぬきの糸車 きし なみ

ある月のきれいなほんのこと、
ふと気がつく、やぶれしよじのあなから、
二つのくりくりした目玉が、こちらをのぞいていました。

糸車が、キークルクルとまわるにつれて、
二つの目玉も、くるりくるりとまわりました。
そして、月のあかるいしよじに、
おもしろいな。
おもしろいな。
また、また。

糸車をまわすまねをする
たぬきのかげがうつりました。

おかみさんは、
おもわずふき出しそうになりましたが、
だまって糸車をまわっていました。

それからというもの、
まいばんのように
たぬきは、まいばんまいばん やってきて、
糸車をまわすまねをくりかえしました。

糸車をまわすまねをくりかえしました。
糸車をまわすまねをくりかえしました。
糸車をまわすまねをくりかえしました。

「いたずらもんだが、
かわいいな。」

おはなしの手もとを見ている。

挿し絵

がくしゅうのめあて
たぬきはね、おかみさんの手もとを見て目玉をくるりくるりとまわしながら、のぞいたんだよ。
そして、糸車をまわすまねをくりかえしたんだよ。
それはね、糸車がいたずらよりたのしいうので、やってみたいとおもったからだよ。

9. 本時の展開

学習活動と内容	指導上の留意点・言語活動の工夫 ○書くこと① △交流 □書くこと② ☆「読み方の種」
<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <p>(1) 前時までを想起する。</p> <p>(2) めあてを確認し、本時場面を音読する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">〔学習のめあて〕 糸車をまわすまねをするためきのおはなしをくわしくよもう。</p>	<p>※ 掲示物をもとに、前時までの学習を振り返らせる。</p>
<p>2 サイドラインを引く【書くこと①】。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;">〔サイドラインのを引く文やことば〕</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;">① のぞいていました。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;">② くるりくるりとまわりました。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;">③ 糸車をまわすまねをする</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;">④ 糸車をまわすまねをくりかえしました。</p>	<p>※ 本時場面の問いかけを確認し、見通しをもたせる。</p> <p>○ たぬきがしたことが分かる文や言葉を教科書で確認させてから、サイドラインを引かせる。</p>
<p>3 たぬきがしたことについて話し合う。</p> <p>(1) たぬきが、何をのぞいているのかを話し合う。</p> <p>【様子】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ おかみさんの手を見ている。 → おかみさんの手が回るにつれて、目玉が回っているから。 	<p>△ たぬきが何をのぞいているのか考えさせるために、挿し絵に着目させる。</p> <p>△ 目玉がくるりくるりと回っていたことに着目させ、たぬきがおかみさんの手元を見ていることやじっと見ている様子に気付かせる。</p> <p>☆</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>「くるりくるり」</p> <p>…挿し絵と言葉をつないで読む</p> <p>…繰り返しの言葉を読む</p> </div>
<p>(2) たぬきが、回すまねをしている時、どんな気持ちだったかを話し合う。</p> <p>【様子】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ おもしろいな。 ・ 楽しいな。 ・ またしたいな。 	<p>△ たぬきが回すまねをした時の様子を想像させるために、動作化をさせる。</p>
<p>(3) たぬきは、どうして回すまねを繰り返したのかを交流する【交流】。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">【気持ち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ もっと回すまねをしたいな。 ・ 糸車をまわしてみたいな。 ・ いたずらより楽しそうだな。 	<p>△ たぬきが、回すまねを繰り返したわけを考えさせたあと、隣の人と話し合わせる。</p> <p>△ いたずらよりも糸車を回すまねをする方が楽しくなっていることに気付かせるため、冒頭でのたぬきの様子を想起させる。</p> <p>☆</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>「まいばんまいばん」 ↔ 「まいばんのように」</p> <p>…言葉を比べて読む</p> </div>
<p>4 読み深めたことを書きまとめる【書くこと②】。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">〔学習のまとめ〕</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">たぬきはね、糸車をまわすおかみさんのところをじっと見て目玉をくるりくるりと回しながら、のぞいたんだよ。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">そして、糸車を回すまねを繰り返したんだよ。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">それはね、糸車がいたずらより楽しそうで、やってみたいと思ったからだよ。</p>	<p>□ 板書をもとに読み深めたことを整理し、大事な文や言葉におはじきを貼り付けてその文や言葉に着目させ、たぬきの様子や気持ちを書きまとめさせる。</p>

第1学年 組 (公開授業②)

5. 本時 (8/12) 読み深め・読み確かめ

6. 本時の目標

- 春になって、上手な手つきで糸車を回すたぬきの様子を読み取り、助けてくれたおかみさんへお礼ができた気持ちを読み深めることができる。
- 言葉ははずして読む、挿し絵と言葉をつないで読む「読み方の種」を習得・活用し、交流活動を通して「じょうずな手つきで」や「いつもおかみさんがしていたとおりに」の言葉のもつ大切さに気づき、考え、発見し、確かに行うことができる。

7. 本時指導の考え方

前時まで、子どもたちは、わなにかかったたぬきの様子やおかみさんに助けてもらって自分の穴に帰った時の気持ちを読み深めている。

本時は、回すまねをくりかえしていただけたたぬきが、おかみさんに助けてもらったお礼に、冬の間、一生懸命糸をつむぎ、春には上手な手つきで回せるようになった様子と気持ちを読み深める学習である。

そのために、まず、たぬきのしたこととつないで読み深めるために、たぬきがしたこととサイドラインを引かせ、問いかけを確認する。

次に、挿し絵をもとに、おかみさんがおどろいた様子やわけを話し合わせる。挿し絵と文からおかみさんが驚いている様子を読み取らせ、たぬきのしたこととつないで本時場面のたぬきのしたことを読む必要感をもたせる。

そして、たぬきが糸車を回して上手な手つきで糸を紡いでいる様子を話し合わせる。挿し絵と「上手な手つきで」をつないで、たぬきの様子を想像させたり、「キーカラカラ」という糸車の回る音や束ねた糸を脇に積み重ねていることにも着目させたりして、おかみさんがしていた通りにできるまでに上手になっていることに気付かせる。

それから、どうして糸を紡いでいたのか、そのわけを交流させる。その中で冬の場面のたぬきのしたことは書かれていないので、秋の場面のたぬきと比べたり、「上手な手つきで」を手がかりにしたりして冬の間のたぬきの行動と気持ちを想像させる。

さらに、「山のようにつんで」や「いつもおかみさんがしていたとおりに」に着目させ、おかみさんにお礼をしたいというたぬきの思いを深めさせる。

最後に、本時で読み深めたことを、板書で確認しながら、大事な文やことばにおはじきを置き、その文やことばに着目させて、たぬきの様子や気持ちを書きまとめさせる。考えのまとまらない子どもには、おはじきを手がかりに板書の中から自分の考えに一番近いものをもとに書きまとめさせるようにする。

8. 板書計画

9. 本時の展開

学習活動と内容	指導上の留意点・言語活動の工夫 ○書くこと① △交流 □書くこと② ☆「読み方の種」
<p>1 本時のめあてを確認する。 (1)前時までを想起する。 (2)めあてを確認し、本時場面を音読する。</p>	<p>※ 掲示物をもとに、前時までの学習を振り返らせる。</p>
<p>〔学習のめあて〕 はるになって、糸をつむいでいるたぬきのおはなしをくわしくよもう。</p>	
<p>2 サイドラインを引く【書くこと①】。</p> <p>〔サイドラインを引く文や言葉〕</p> <p>① 山のようにつんであった ② まきかけた糸までかかって ③ 糸車のまわる音が ④ じょうずな手つきで糸をつむいで ⑤ たばねてわきにつみかさね</p> <p>3 たぬきがしたことについて話し合う。 (1)おかみさんの様子からたぬきのしたことを話し合う。 【おかみさんの様子】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あっと驚いている ・びっくりして口があいている ・戸をあけてすぐ気づいてる <p>(2)上手な手つきでたぬきが、糸を紡いでいる様子を話し合う。 【たぬきの様子】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・糸車をまわす音が同じ ・おかみさんと同じかっこう ・おかみさんがしていた通りに <p>(3)どうしてたぬきが上手な手つきで糸を紡いでいたのかを交流する【交流】。</p> <p>【理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎晩おかみさんがするのを見ていたから。 ・おかみさんのまねを毎晩していたから。 ・おかみさんにお礼をしようと思っていたから。 ・冬の間も糸車を回していたから。 <p>(4)紡いだ糸をわきに積み重ねるたぬきの気持ちを交流する【交流】。</p> <p>【気持ち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おかみさんもこうしてたな。 ・うまくできたぞ。 ・おかみさんに、お礼をしよう。 ・おかみさん、喜んでくれるかな。 <p>4 読み深めたことを書きまとめる【書くこと②】。</p>	<p>※ 本時場面の問いかけを確認し、見通しをもたせる。 ○ たぬきがしたことが分かる文や言葉に着目させるために、サイドラインを引かせる。</p> <p>△ 挿し絵と文からおかみさんの驚きを読み取らせ、たぬきのしたこととつないで考えさせる。 ☆</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「あっとおどろきました」 …さし絵とことばをつないで読む</p> </div> <p>※ おかみさんが驚いた様子分かるようにおかみさんのことばや糸車の回る音を音読させる。 ☆</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「じょうずな手つきで」 「おかみさんがしていたとおりに」 …挿し絵とことばをつないで読む …言葉ははずして読む</p> </div> <p>△ おかみさんがしていた通りにできるようになったわけを考えさせるために冬の間のたぬきを想像させる。</p> <p>△ うれしい気持ち、感謝の気持ちをとらえさせるために、前の場面とつないで考えさせる。</p> <p>□ 板書をもとに読み深めたことを整理し、大事な文や言葉におはじきを貼り付けてその文や言葉に着目させ、たぬきの様子や気持ちを書きまとめさせる。</p>
<p>〔学習のまとめ〕 たぬきはね、ふゆのあいだも糸車をまわしていたからじょうずな手つきで糸をつむいでいたんだよ。 それはね、おかみさんにおれいをしようとおもったからだよ。</p>	

